

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年6月15日 (2017.6.15)

【公表番号】特表2016-519110(P2016-519110A)

【公表日】平成28年6月30日 (2016.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2016-039

【出願番号】特願2016-509148(P2016-509148)

【国際特許分類】

C 0 7 K 14/46 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 9/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/72 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/12 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 15/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 P 21/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 14/46

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 9/14

A 6 1 K 9/72

A 6 1 K 9/06

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 K 9/12

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 15/00 Z N A

C 1 2 N 5/10

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/15

C 1 2 P 21/00

C

【手続補正書】

【提出日】平成29年4月24日(2017.4.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

獣医学的デコリンコアタンパク質分子であって、配列番号 4、7、10、13、16、19、22、及び 27 のうちの 1 つと少なくとも 95 % 同一であるが、但し、前記獣医学的デコリンコアタンパク質が、アミノ酸 4 位で突然変異を含むことを条件とする、獣医学的デコリンコアタンパク質分子。

【請求項 2】

前記突然変異が、前記分子の G A G 化 (g a g y l a t i o n) を防止する、請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質分子。

【請求項 3】

前記突然変異が、セリンからアラニンへの突然変異である、請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質分子。

【請求項 4】

前記タンパク質分子が、配列番号 4、7、10、13、16、19、22、及び 27 のうちの 1 つと少なくとも 98 %、好ましくは少なくとも 99 %、さらに好ましくは 100 % 同一であるが、但し、前記獣医学的デコリンコアタンパク質がアミノ酸 4 位で突然変異を含むことを条件とする、請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質分子。

【請求項 5】

前記コア分子が、外来シグナルペプチドと作動可能に連結されており、

前記外来シグナルペプチドが、好ましくはウシラクトアルブミンシグナルペプチドである、請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質分子。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質分子を、薬学的に許容される担体と組み合わせて含む、組成物。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコア分子をコードする核酸配列を含んでおり、

獣医学的デコリンコア分子をコードする前記核酸配列が、好ましくは外来シグナルペプチドに作動可能に関連付けられ、

前記外来シグナルペプチドが、さらに好ましくはウシラクトアルブミンシグナルペプチドである、発現ベクター。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の前記発現ベクターを含む宿主細胞。

【請求項 9】

獣医学的デコリンタンパク質の生成方法であって、請求項 7 に記載の前記発現ベクターを宿主細胞中で発現させ、前記獣医学的デコリンタンパク質を生成することと、前記獣医学的デコリンタンパク質を精製することと、を含む方法。

【請求項 10】

請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質分子を含む薬学的製剤であって、前記製剤が、液剤、粉剤、噴霧剤、ゲル剤、軟膏剤、ローション剤、または点眼剤である、薬学的製剤。

【請求項 1 1】

それを必要とする獣医学的対象に治療を施す方法における使用のための、有効量における、請求項 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質。

【請求項 1 2】

前記獣医学的デコリンコアタンパク質が、経腸投与、非経口投与、局所投与、経口投与、静脈内投与、皮内投与、皮下投与、経皮投与、経鼻投与、筋肉内投与、髄腔内投与、眼内投与、硝子体内投与、腔内投与、及び経粘膜投与からなる群から選択される投与のために調製されている、使用のための、請求項 1 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質。

【請求項 1 3】

前記獣医学的対象が、創傷、損傷または疾患を患っており、
当該創傷、損傷または疾患が、

a) 前記獣医学的デコリンコアタンパク質が、瘢痕形成、好ましくはケロイド瘢痕を阻害するために投与される、皮膚への創傷または他の損傷、ここで、当該創傷が、好ましくは美容的または一般的外科手術、前記皮膚への損傷、または肉芽を生じる損傷の結果である；

b) 眼に対する損傷または疾患、眼に対する当該損傷が、好ましくは角膜手術、眼熱傷、眼感染、及び擦傷性損傷の結果である；

c) 好ましくは間質性肺疾患及び肺線維症からなる群から選択される、肺疾患；

d) 好ましくは糖尿病性腎症及び腎線維症からなる群から選択される、腎疾患；

e) 好ましくは肝硬変及び肝線維症からなる群から選択される、肝疾患；

f) 好ましくは EGF 受容体または IGF - I 受容体陽性癌である、癌；

g) 心疾患；

h) 好ましくは脳損傷及び脊髄損傷から選択される、神経外傷

からなる群から選択される、使用のための、請求項 1 1 に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質。

【請求項 1 4】

対象の治療における使用のための、請求項 1 ~ 6 及び 1 0 のいずれか一項に記載の獣医学的デコリンコアタンパク質、組成物、または薬学的製剤。

【請求項 1 5】

前記獣医学的デコリンコアタンパク質が、経腸投与、非経口投与、局所投与、経口投与、静脈内投与、皮内投与、皮下投与、経皮投与、経鼻投与、筋肉内投与、髄腔内投与、眼内投与、硝子体内投与、腔内投与、及び経粘膜投与からなる群から選択される投与のために調製されている、請求項 1 4 に記載の、使用のための獣医学的デコリンコアタンパク質。

【請求項 1 6】

前記獣医学的対象が、創傷、損傷または疾患を患っており、
当該創傷、損傷または疾患が、

a) 前記獣医学的デコリンコアタンパク質が、瘢痕形成、好ましくはケロイド瘢痕を阻害するために投与される、皮膚への創傷または他の損傷、ここで、当該創傷が、好ましくは美容的または一般的外科手術、前記皮膚への損傷、または肉芽を生じる損傷の結果である；

b) 眼に対する損傷または疾患、眼に対する当該損傷が、好ましくは角膜手術、眼熱傷、眼感染、及び擦傷性損傷の結果である；

c) 好ましくは間質性肺疾患及び肺線維症からなる群から選択される、肺疾患；

d) 好ましくは糖尿病性腎症及び腎線維症からなる群から選択される、腎疾患；

e) 好ましくは肝硬変及び肝線維症からなる群から選択される、肝疾患；

f) 好ましくは EGF 受容体または IGF - I 受容体陽性癌である、癌；

g) 心疾患；

h) 好ましくは脳損傷及び脊髄損傷から選択される、神経外傷

からなる群から選択される、請求項 1 4 または 1 5 に記載の、使用のための獣医学的デコ
リンコアタンパク質。